

〈令和3年度 稲美北中学校教育目標〉

自立する生徒の育成

＝ 知・徳・体の調和のとれた、こころ豊かな人づくりをめざして ＝

「努力・創造・協力」の校訓のもと、学校運営協議会と協働し、家庭、地域との連携・協力を深めながら、学校と家庭、地域がそれぞれの教育機能を発揮し、豊かな心を持ち、社会の変化に対応できる生徒の育成とともに、互いに人格を認め合い、助け合いのできる生徒の育成に努める。

重点目標

- (1) 個を大切にし、生徒が学び合う「わかる授業」を実践し、学力の向上に努める
 - ①「知識・技能」を習得させ、「思考・判断・表現」ができる力を育成するとともに、「主体的に取り組む態度」を育てます。
 - ②ペア学習、グループ学習などの言語活動を積極的に取り入れ、共に学び合う姿勢を育てながら、すべての生徒が主体的に活動できる授業をめざします。
 - ③学習への課題があり、支援が必要な生徒に対して、全教職員で研究し、関係機関との連携や通級学級などを活用して、より良い学習支援を行います。
 - ④インクルーシブ教育システムの構築にむけ、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、きめ細かな教育的支援を行います。また、生徒が持てる力を最大限伸ばせるよう指導内容や指導方法を工夫します。

- (2) 人間尊重の精神を教育活動の基盤におき、いじめや差別のない集団づくりに努める
 - ①社会のルール、道徳心や正義感を身につけた規範意識の高い生徒を育てます。
 - ②あいさつができる学校をめざします。あいさつは豊かな人間関係を育み、自発的コミュニケーションの入り口であることを理解させ、仲間や他者を大切にできる生徒を育てます。
 - ③きれいな学校をめざします。自分の学校を大切にし、感謝の心で、掃除ができる生徒を育てます。
 - ④生徒会発信の『INAKITA ISM～北中生の流儀』及び『北中ネット・SNS利用ルール』、『ノーチャイム制』の推進を通じて、社会性を高めるためにルールを守らせるだけでなく、ルールの意味を考えさせる取組を進めます。
 - ⑤自主的な生徒会活動や生徒自らのルール作り等の体験を通して、様々な立場から物事を判断する総合的な力を培います。

- (3) 生徒会と連携し、「INAKITA ISM」をもとに、全校生徒の自主性や自治（ボランティアスピリット）を育む生徒指導を行う
- ①全職員が、学年や分掌を越えて信頼と共通理解のもと、積極的に指導に取り組みます。
 - ②一人ひとりの生徒理解を深め、生徒が自主的に活動し、自尊感情を高めながら、楽しく学べる学級経営に努めます。
 - ③生徒を中心に、学校と保護者・地域がそれぞれの考えを理解し、さまざまな課題に対して連携した指導を行います。
 - ④いじめ防止に努め、早期発見・早期対応ができる取組を実践し、カウンセリングや教育相談により生徒の内面理解に努めます。
 - ⑤生徒会と連携し、「INAKITA ISM」の3原則「元気に登校する 学校での学びを大切に
する 笑顔で下校する」の具現化に努めます。
- (4) 学校運営協議会と協働し、地域に信頼される学校づくりを推進する
- ①学校便り、CS※便り、学年通信、学級通信、学校ホームページ等を通じて情報を発信し、保護者と地域に学校の実態を理解してもらえよう努めます。
※CS：コミュニティ・スクール
 - ②地域の教育力（自然・文化・人材など）を積極的に取り入れ、「地域の学校・地域とともにある学校」をめざします。
 - ③地域からの情報を積極的に受信し、得られた情報は職員間で共有し、できるだけ迅速に対処します。
 - ④生徒が社会の一員として、地域の活動や行事に積極的に参加できるように協力する体制を整え、お互いに顔の見える交流を図ります。
- (5) 安全で安心して学校生活を過ごせるように、命・健康を大切にされた学校運営の推進に努める
- ①新型コロナウイルス等の感染拡大への対応として、マスクの着用、手洗い・うがいの励行を啓発します。
 - ②生徒が規則正しい生活を送り、健やかな体づくりができるように指導を行います。
 - ③コロナ禍において、生徒の活動が制限される中、安全・安心に配慮して、工夫を凝らした活動ができるように努めます。